

休み方改革で日本人旅行需要を喚起するとともに、訪日客増加に伴う首都圏空港機能の強化にできるだけ早く取り組む必要がある

出入国管理統計によると、2016年度に成田空港国際線を利用した外国人入国者数は701万人（前年度比+11.0%）、日本人出国者数は673万人（同+2.4%）とともに増加した。とくに前者は過去最高を更新し、初めて後者を越えた。

もっとも喜んでばかりはいられない。羽田空港国際線では、外国人客が米国路線等の増強（一部は成田からのシフト）や、日本人客が景気回復に伴う海外出張の増加などから、2016年度の入・出国者数が各々+21.6%、+11.9%と伸びており、成田空港の伸びを上回った（図表）。外国人客はここ数年、関空など地方空港や海港（大型クルーズ船）の利用が伸び、首都圏空港（成田+羽田）の全国シェアは低下傾向にあったが、2016年度は羽田空港の躍進で歯止めが掛かった（+0.3%ポイント、日本人シェアは引き続き低下し▲0.4%ポイント）。

今後も、少子化を底流に地政学リスクや若者の旅行離れなどもあって日本人客は伸び悩む怖れがある一方、訪日客増加の流れは2020年東京オリ・パラ後も続く可能性が高いが、それを見越して、各空港がこぞって海外路線を新・増設する計画を示すなど、インバウンド客の獲得を巡る空港間競争はますます激化する方向にある。このため、成田空港では外国人客の利便性向上に向けた取込み強化を決めた。本年8月には、訪日客向けの情報窓口を1カ所に集約した国内空港最大級の「ビジター・サービスセンター」を空港内に新設。中央カウンターには、乗継ぎ客などを対象とする「Narita Airport Transit & Stay Program」の受付が配置され、外国人に人気の高い成田山コースや、忍者や着物などのコスプレをして江戸時代の町並みを背景に写真撮影ができる栄町コースなど、短時間で日本を堪能し楽しめるよう、様々なプログラムが用意される。

この間、成田空港における2016年度国内線旅客数は、LCCの就航拡大に伴って2012年度以降毎年+15%以上の増加が続いていたものが、昨年度は、大都市間路線の整備一巡などから+4.7%増の伸びに留まった。

今後とも人口減少の中で、日本人の内外航空需要を喚起するには1人当たり利用回数を増やすしかないが、その中で注目されるキーワードが「休み方改革」だ。政府は、長時間労働の是正を含めた働き方改革と歩調を合わせて休み方の改革も進め、2月に「プレミアムフライデー」を導入したのに続き、2018年度には夏休みなどの長期休暇の一部を別の時期にずらして大型連休とする「キッズウィーク」の導入や、年次有給休暇の取得を前年度より3日増やす施策にも取り組む方針である。

これら取り組みが奏功するかは未知数ながら、訪日客増加による2030年の航空旅客需要（15年比約30%増）を展望すると、できる

だけ早く首都圏空港機能の強化に着手する必要がある。成田空港滑走路の新增設・延伸は東京オリ・パラには間に合わないが、夜間飛行制限の緩和は、関係者が知恵を出し合い、できるだけ早く解決すべき問題であるとの認識を関係者が共通して認識する必要があるのではなかろうか（大塚）。

【外国人入国者数】

(人数:人、増減率・シェア:%)

	2015年度	2016年度	年度差	増減率	国内全港中のシェア		
					15年度	16年度	増減
全港	21,098,201	23,904,199	2,805,998	13.3			
成田+羽田	9,069,617	10,357,206	1,287,589	14.2	43.0	43.3	0.3
成田	6,319,203	7,012,715	693,512	11.0	30.0	29.3	-0.6
羽田	2,750,414	3,344,491	594,077	21.6	13.0	14.0	1.0
成田-羽田	-	-	-	-10.6	-	-	-1.6

【日本人出国者数】

	2015年度	2016年度	年度差	増減率	国内全港中のシェア		
					15年度	16年度	増減
全港	16,344,903	17,492,384	1,147,481	12.1			
成田+羽田	10,450,119	11,122,526	672,407	6.4	63.9	63.6	-0.4
成田	6,533,916	6,733,411	199,495	3.1	40.0	38.5	-1.5
羽田	3,916,203	4,389,115	472,912	12.1	24.0	25.1	1.1
成田-羽田	-	-	-	-9.0	-	-	-2.6

(注)1. 法務省出入国者管理統計をもとに、ちばぎん総合研究所が作成

2. 増減率・シェアは小数点以下第2位を四捨五入して算出